“清泉女学院中学高等学校×東京農工大学”　交流会
（ムーンショット目標５ 千葉プログラムディレクター（当時））

■日　時：　令和8年3月26日（木) 10:00～12:20
■場　所：　東京農工大学@府中市
■参加者：　13名
（清泉女学院　中2:1名、中3:6名、高1:1名、高2:3名、教員2名）

■応募背景

昨年2回にわたり実施したムーンショット目標５との交流会での学びを踏まえ、本活動では探求活動の集大成として、生徒一人ひとりが「未来の食と農」について自らの視点で考え、発表する場を設け、千葉先生等から講評をいただくことで、生徒の探求をより深いものにしたい。また、大学の研究現場を見学することで、科学技術への理解を深めるとともに、生徒が将来の進路やビジョンを具体的に描く契機としたい。

■概　要：＜生徒によるアイデア提案＞

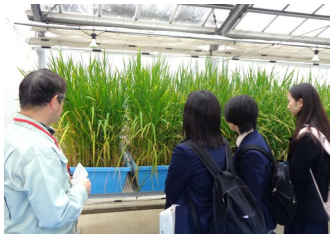
生徒たちは「災害時の安定的な食料供給」をテーマに、目標５の3つのプロジェクトを活用した次世代の非常食（AI-Nutrition技術を活用した無駄のない非常食、低温凍結含水ゲル粉末を活用したアレルギー対応非常食、CCCを利用した栄養価が高い培養肉）を提案。理系・文系双方の視点を踏まえた一年の探求成果の発表となりました。当日は関係者から「わかりやすい発表」「非常食という切り口で3プロジェクトを統合している点が優れている」と高い評価を受け、生徒の独自の視点と発表力が評価されました。千葉先生からは「興味をもったキーワードを深堀することは、将来につながる大切な一歩になる。これからも是非続けてほしい」と励ましの言葉が送られました。

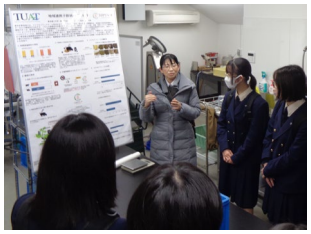
＜研究現場の見学と大学生等との懇談＞

大学の作物・昆虫・養鶏に関する研究施設を訪問し、品種改良された稲や豚の飼料として育成されているアメリカミズアブの幼虫、さらに多様な方式で飼育されている鶏舎の見学を行いました。実際の研究現場を自らの目で確認することで、最先端の研究がどのように進められているかを具体的に理解する貴重な体験となりました。また、その後の女子学生との懇談では、大学での授業や学生生活、大学祭やサークル活動など幅広い話題について活発な意見交換が行われました。生徒にとって、大学生活をよりリアルに感じるとともに、将来を考えるきっかけとなる有意義な時間となりました。

参加者・千葉PD

探究活動の報告





研究施設見学

大学生・大学院生との懇談

＜目標５ プログラムについて＞
「2050年までに、未利用の生物機能等のフル活用により、地球規模でムリ・ムダのない持続的な食料供給産業を創出」
https://www.naro.go.jp/laboratory/brain/moon_shot/index.html